

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470800345		
法人名	大分部品株式会社		
事業所名	グループホーム湧水の郷		
所在地	大分県竹田市大字菅生字木ノ上1169番2		
自己評価作成日	令和2年3月2日	評価結果市町村受理日	令和2年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kainokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kanistrue&jiyosyoCd=4470800345-00&PrefCd=44&VersionCd=

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府巻番館 1F		
訪問調査日	令和2年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

久住山、祖母山、阿蘇山の景観を見渡せる広大で自然豊かな環境にあり、施設も広々として開放感があり、スタッフも気さくで利用者様を自分の父母・兄弟・姉妹と思って日頃から心掛けています。各利用者の希望をくみ取り、個別の外出希望等にも応じています。また、当事業所所有の畑があり、野菜の自家栽培を行っており、毎日の食卓へ提供をしています。地域事業にもできる限り参加させていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然あふれる環境に位置し、人口減少や高齢化が進む地域ですが、地域活動のつながりの場として「地域交流会」を設立し、地区民・小学生が施設で神楽を行うなど、地域との連携が密になっています。家族の訪問回数の少ない利用者の孤立防止や健康維持の為、利用者の要望により外出を支援しています。食事は調理師が献立を日々計画し、工夫され利用者に喜ばれています。介護計画に利用者一人ひとりの要望を取り入れ、具体的に計画され実践に繋がっていること、又利用者目線で一人ひとりの思いを大切に支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族や地域社会との関わりが保てるよう「つなぎ役」としての役割を担っていることを理念に掲げています。地域で普通の生活が安心して継続できるよう支援する話し合いを行っています。	毎日のミーティングや職員会議等で重要性を認識し、支援の中で理念に基づいた取り組みがなされています。職員採用等についても理念を説明し、早期離職を防ぐよう活用されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の人がいいつでも立ち寄れるように、特に面会の時間制限等は設定していません。旬の食材(野菜等)の差し入れを多く頂いています。	地域の祭り・盆踊りなどの行事には、重度者は無理な部分がありますが軽度の方など外出可能な方は積極的に外出支援に取り組み、地域交流会を設置し、小学生の神楽や近隣の人が立ち寄りやすい環境創りに取り組まれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	御家族の面会訪問時や、地域の人達に折にふれ「認知症」の理解やケアなどを話すようにしている。地域交流会(11月)の開催を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定例の報告事項以外に、その都度ごとのトピックスを準備して報告させて頂いています。内容については、現場職員に朝礼にて周知しています。	毎回、地区区長さんを初め、5～6名で取組まれ、意見交換を行っています。自己評価・外部評価・改善計画を報告し、外部からの意見を承りその改善等については職員と共に取り組まれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	家族が市外居住が多く行政の代行業務等で足を運ぶことが多い。また、営業訪問等や電話などで相談したり指導いただいたりしている。また、月例の事業所報告会には、休まず出席しています。	法律の改正・制度の変更等利用者に関することが生じた場合、積極的に相談に出向いています。認定更新などで、利用者の状況に変化が生じた時や、暮らしぶりなど生活状況を報告されるなど連携がなされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を作り、身体的拘束及び行動制限廃止マニュアルや緊急止むを得ない身体に関する説明書を作成し、正しく理解するようにしている。同意により身体拘束を行ったことは、ない。	身体拘束に配慮し、行動制限マニュアルを中心に毎月1回以上職員全体で研修・取り組みがなされており、玄関の施錠は昼間はやっておらず、外出しそうな気配を感じたら職員と一緒に散歩するなど、気分が落ちつこうよう支援がなされています	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の内容は職員がよく把握している。又関係書類は備え付けいつでも再認識ができるようにしている。利用者や職員の日常の言動に管理者は注意を払い、虐待が見過ごされないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「介護による利用者権利擁護」資料を常時閲覧可能として、職員会議時の研修会にて取り上げています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問などを遠慮なく尋ねられるような雰囲気作をつくり、管理者が説明している。入居日の同時契約は、ゆっくりと説明ができない場合が多いので、事前に訪問頂いて、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活してきた環境が皆違うので価値観の違いから、不満や苦情が生じるのは当たり前なので遠慮なく相談頂くように案内している。	家族から意見が伝えやすいよう、アンケート調査や満足度調査を行うなどの取り組みがなされ、意見箱も大きく改修され使いやすいよう配慮がなされ、同時に相談の窓口が施設だけでなく、役所・国保連など、意見が表せる場の説明をされています	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の第三水曜日に全職員会議を開催している。職員からの生の声を聴き、失敗を恐れず又咎めないようにし、次に活かすよう指導している。	毎月の会議の中で、職員の想い・気付きを把握し支援の中に活かせるよう対応がなされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社が佐伯市にあり総括しているので、連絡をとりながら職場環境の整備や条件の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画を立てて順次研修を受けケアの質を高め、実践に取り入れるようにしている。又旅費や日当、研修前後の勤務体系に考慮し負担にならないよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月例の市主催の事業所連絡会や市包括支援センター、保険者開催の研修会への参加を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	現実的には本人の納得が十分でないのに家族の意向による入居が多い。家族の状況や思いを受け入れつつ可能な限り本人に会い、不安な気持ちを察してよく話を聞き解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望の段階で、施設側から出向いて、直接にお話しをする機会を作っている。不安要素を取り除いた上での契約を進めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実情や要望をもとにその時点で何が必要かを見極めるため、ホーム関係者だけでなく居宅のケアマネージャーにも相談している。必要と思えるサービスについては速やかにサービスできるよう配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	実情や要望をもとにその時点で何が必要かを見極めるため、ホーム関係者だけでなく居宅のケアマネージャーにも相談している。必要と思えるサービスについては速やかにサービスできるよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに配慮しながら、一緒に支援するよう働きかけている。例えば一番頼りにし大事にしているのは家族だという事を代弁し、家族の担う部分を理解していただき、介護がゆだねきりにならないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所にはドライブを兼ねて行く。墓参りに行く。家族、親戚等の来訪時は、応接室や畳の部屋で他の入居者とは別にお茶や食事を用意し、くつろいでいただいている。	キーパーソン等と打合せを行い、本人の意思を確認・想いのある場所や墓参りへの外出支援と共に、縁が途切れないよう電話・手紙の出せる支援にも取り組まれ、常に馴染みの職員が身近に寄り添い継続的な支援がなされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を配慮して、食事の席等を決めている。また、変更が必要な場合は、速やかな対応を心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近くを通ったら立ち寄らせてもらっている。気になる事があれば、担当CMに連絡を入れている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの人生を大事に思いやりながら思いや意向、希望に沿って対応している。ご本人からの把握が困難な場合は、家族等から聞いて、本人の視点に立って意見をだし合い、話し合って事に当たっている。	面会に来られる家族・知人から意見を聞き、好きなこと・嫌いなことを把握し、本人の意思・考えを推察し、表情・行動から言葉に表せにくいことを受け止め、職員で共有し支援に取り組みがなされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時のアセスメント作成時に利用者個々の歴史や馴染みの暮らし方及び入居に至った経過は把握するようにしている。個人ファイルにて全職員に事前説明している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌の個人ごとコメント欄に日々の様子は、記録され、日々の朝礼時に申し送られることで、全職員に周知される。また、定例の職員会議にて個別処遇について討議されている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期のサービス担当者会議の開催時には、CM,担当職員、管理者だけでなく、できる限りは、家族の同席を求めている。	担当職員や家族、そして意思を確認できる利用者本人も参加し、介護計画は本人本位につくられています。状態の変化が生じた時は、モニタリングを行い計画の見直しに取り組まれています。	インフォーマルサポーター等の位置づけも検討して、頂くよう期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日業務日誌や申し送りノートに記録をとり情報を共有しあっている。又短時間でも毎日気づきや結果などの共有に繋げるように意識して話し合っている。これらのことを根拠にしながら介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院したとき家族に代わっての入院準備や、介護施設の紹介や説明、家族の居ない人の受診介助など必要に応じ柔軟に支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族がいない入居者には民生委員との関わり等を利用して地域の人達と連携を密にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に従来通りの主治医による継続的な医療が受けられるよう本人を含め、家族や主治医に説明し安心してもらっている。	本人・家族の希望を大切に、かかりつけ医が継続出来るよう支援されています。受診結果は必ず家族へ報告しています。往診の希望に対応し適切な医療が受けられるよう、支援がなされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけの医療機関と連携を密にし、適切な受診や看護が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や医療機関には本人及び家族の意向、それにホームの介護力を伝え、入院や退院の目安となるよう日頃より伝えている。ケースワーカーとは連絡を取り合い、ホームの見学や介護方針等情報提供を行い関係作りを行っている。入院中の面会にも力を入れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したときや終末期の事業所としての方針を、早い段階で本人及び家族と話し合い意向をよく聴き説明している。又主治医とは事務所の方針と介護力を早い段階で相談して助言をもらっている。	重度化した際のあり方について、本人・家族と話し合い方針の共有化がなされ、協力医を含めチームで取り組みがなされています。今後は、看取り支援についての検討がされています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練を行っている。マニュアルをおき、夜間勤務時や必要時に意識して確認し、緊急時に備えている。また、緊急時の協力員として近所の3名の方の電話連絡がいつでもとれるよう貼ってある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し各担当者を決めている。地区分館長や近所の人達、地元消防団にも協力要請をしている。	防災マニュアルが作成され、避難訓練には消防署員や、地区の方の参加もあり、消火器の使い方の講習を行うなどの取り組みがなされています。非常食の備蓄もされ、定期的に点検されています。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であること、その人の人生は今がどうであれ尊いものであることを、職員は根本に据えて接している。特に個人情報の取扱いは家族や知人であっても漏らさないように指導している。	利用者に声掛けの際には、なれ合いになりすぎないように人格を尊重した対応をしています。プライバシーや個人情報漏洩に対する勉強会を行い、人格を尊重した支援がなされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の密着な関係で「慣れ」が生じやすいので、早合点や会話だけで理解したつもりにならず、表情や目の動き、体全体の反応を注意深く観察するようにしている。自己決定ができるようゆっくりと顔を見て声かけしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の心身状態を考慮し、その時々で生活のリズムが違ふ事や、利用者主体の生活である事を認識しているので、利用者に合わせて(希望に沿って)臨機応変に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はとり易いように一緒に整理したりハンガーに掛けておく。理容や美容は声かけし自分で髭剃りをしたり、美容師に来てもらったり、行ったりしている。1日1回は更衣している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きなど手伝ってもらい、出来立てと一緒に味わいながら食べる。又行事の献立は豪華に、旬の食材は早めに食卓に出すようにしている。	食事の下ごしらえや後片づけなど、利用者の各々が出来ることの力を活かしながら、参加しています。利用者と職員が、同じ時間に同じテーブルを囲み食事を楽しんでいます。定期的におやつ作りの支援をされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	新鮮な自家製野菜を中心とした献立を偏らないよう、状態の応じた食事形態で提供している。また摂取量のチェックを行い(食事や水分)、脱水症状にならないようにしている。個人の嗜好にも個々に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後必ず本人がした後に(能力に応じ)磨き直しを行っている。又定期的に入れ歯は洗浄し、コップや歯ブラシは夜に洗い乾燥させている。チェック表に記録し毎食後に磨き忘れがないようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ADLや排泄チェックより、個々の排泄パターンを把握し声かけや誘導、見守りに一部介助を行い、オムツ使用は最小限にしている。夜間のみのポータブルトイレ対応もしている。	利用者各々の排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄が出来るよう、声掛け・誘導がされています。パット使用の利用者もありますが、トイレでの排泄を大切にしながら、排泄の失敗の際もさり気なく対応しています。	夜間安眠のためにも、パットの使い分けの検討を期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い野菜やヨーグルト、牛乳などの飲食物摂取を行っている。また、業務日誌に排便確認を記載して、排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の生活習慣や身体状況、その時々希望を大事にして柔軟に対応している。目安のため入浴チェックを行い拒否する人の「促し」の参考になっている。入浴はリラックスし、ゆっくりと安全に入ってもらっている。	利用者各々の希望に合わせ、ゆっくりとりラックスした支援がされています。吊り上げ式のリフトの使用もありますが、ヒヤリハット等なく安全に使用されています。入浴時の会話などは記録に残されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室はベットを用意し、いつでも必要に応じ横になれるようにしている。(ホールには長椅子・衝立で仕切った畳の間にはコタツがある)又布団は「太陽」に干し、シーツは頻繁に洗濯し清潔保持と安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れが無いよう又間違いがないように、名前と日付をいれ2人の職員で確認しあっている。服薬による副作用や症状の変化には気を配っている。副作用があれば直ぐに主治医に連絡している。業務日誌にて服薬記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を参考に、関わりの中から新たなヒントを得て潜在能力を発揮するきっかけを作り出すよう働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・ドライブ・買い物同行・定期受診時に遠回りするなど可能な限り外出できるようにしている。家族にも一緒に外へ出かけるなど働きかけている。外に出ての表情や会話の生き生きとした変化をどの職員も感じ取っており、外出を一緒に楽しんでいる。	日頃より、施設周りの散歩は頻繁に行われており、時には家族とお墓参りに出かけたり気分転換が図られています。年末年始に家に帰るなど、家族の協力が得られています。季節ごとの外出も支援されています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各個人の小口現金を預かっており、能力に応じ、家族と相談しながら購入時にお金の支払いができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に、或いは必要に応じいつでも電話で話せるように支援している。手紙の投函も引き受けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	目に触れるところに花や観葉植物等をおいて、季節を感じながら居心地良く過ごせるようにしている(こいのぼり・雛人形など)又いつでも読んだり見たりできるよう新聞を置いている。	庭には季節の花が植えられ、季節を感じる事が出来ます。ホールには加湿器が設置され、壁面には利用者と職員が制作した季節の作品が飾られ、居心地の良い共用空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間にはコタツがあり、座布団を置きいつでも思い思いの姿勢でくつろげるようにしてある。その他ソファや長椅子を、玄関とTVの横に配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い自分の部屋である為に、使い慣れたタンスやソファ・小物入れ・寝具を持って来られている。	居室には使い慣れた家具や、馴染みのものが持ち込まれ居心地よく過ごせるよう配置されています。職員が衣類の整理や、掃除を行うなど、環境を整え居心地よく過ごせるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やホールは段差がなく手すりを配置し、トイレや浴室は滑らないよう工夫されている。又歩行線上に障害物を置かないようにしている。		